

春日池公園
パークライフ
ビジョン
2023

みんなで育てる、元気の源。
ネイチャーポジティブな水辺公園

安心安全な公園づくり

五感で自然を感じながら公園を楽しむ

誰もが通いやすい公園づくり

誰でも子どもが楽しめる公園づくり

みんなで育てる公園づくり

子育て世代の安心

みんなが元気に活躍できる

序章

ビジョンの位置づけ

第1章

春日池公園と周辺エリアの成り立ち

第2章

春日池公園の現状・ポテンシャル

第3章

取組方針とビジョン

第4章

ビジョンの実現に向けて

序章

ビジョンの位置づけ

公園が豊かになれば、 暮らしも豊かになる。

気持ちのいい、ワクワクする公園が身近にあると
暮らしがもっと豊かになっていくと思いませんか？

春日池公園パークライフビジョンは、
春日池公園が持つ豊かな自然環境を
みんなで守り、みんなで育て、日常の暮らしに活かしていく、
そんな想いを詰め込んだ新しい公園づくりの道しるべです。



公園づくりの3ステップ

春日池公園パークライフビジョンは一度つくって終わりではありません。

小さなアクションの積み重ねから、いろいろなことが見えてくるはずです。

活動を通じて1人1人の想いを反映しながら、みんなの手でアップデートしていきましょう。

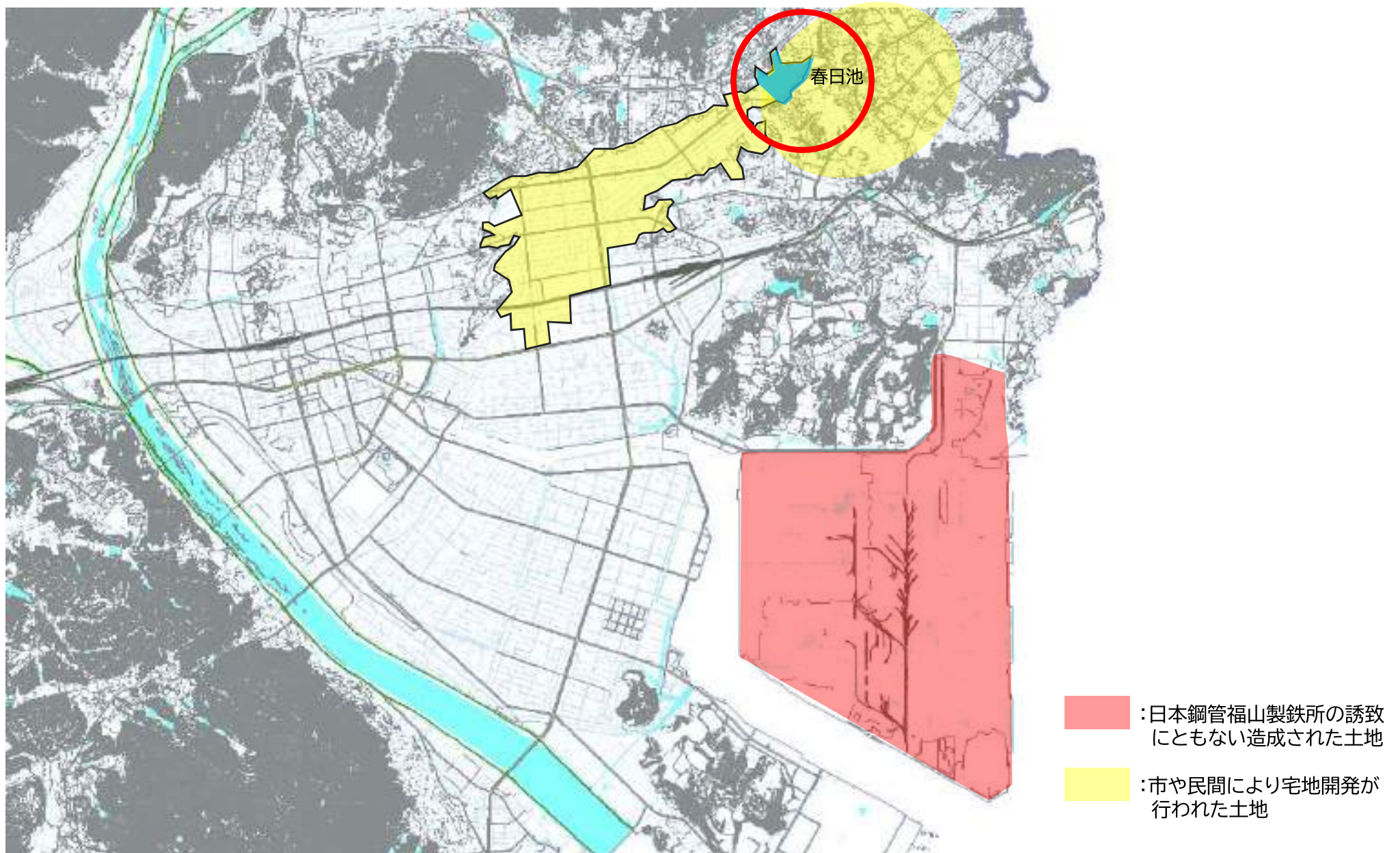
第1章

春日池公園と周辺エリアの成り立ち

-

(引用)蔵王八幡神社沿革

- 1961年頃に日本鋼管福山製鉄所の誘致に合わせ、大規模な宅地造成事業が行われました。
- この土地区画整理事業に併せて、市民の憩いの場所として春日池公園が整備されました。





- 所在地: 福山市春日町四丁目2-1
- 公園の種別: 都市公園(総合公園)
- 開設年: 1986年(昭和61年)
- 面積: 15.6ha(内、水面8.3ha)
- 施設: 春日池、中央広場、芝生広場、冒険の国、花の広場、四季の森、菖蒲園、管理棟、トイレ、第1～第3駐車場など

- 1982年に春日池公園基本計画がつくられ、春日池公園整備の方針やエリアごとの具体的な計画が盛り込まれました。
- 春日池の水面を最大限に活かすことや、貴重な自然的風致を活かすこと、四季を通じて楽しめること、大人から子どもまで利用できること等が方針に挙げられています。

春日池公園基本計画平面図



■ 春日池公園基本計画において、エリアごとに下記に示す具体的な計画がつけられています。



- 公園内の中央広場に設けられたモニュメントは「太陽の滴」と呼ばれており、世羅町出身の環境彫刻家 杭谷一東氏の作品です。
- この場所が、“造形と人間がひとつに溶け込む語らいの場”になることを期待してつくられました。



写真:杭谷一東HP

■ 杭谷 一東氏の経歴

- ・ 1942年
広島県世羅町に生まれる。
- ・ 1962年
当時最年少で日展に入選。以後8年連続入選。
- ・ 1971年
イタリア国立アカデミー卒業時に最優秀ミネルヴァ賞を受賞。
- ・ 1990年
ローマ法王ヨハネ・パウロ二世に謁見。
- ・ 2005年
イタリアのMAA(マープル・アーキテクチュラル・アワード)大賞を受賞。

オープンセレモニーの様子(福山市制100周年記念誌より)

春日池公園や周辺エリアの歴史・成り立ちを学んで。

コラムでは、ワークショップで挙がったみなさんの声を取り上げていきます。

- 春日池公園は子どものころ遊んだ思い出や、子育てで使った記憶のある大切な場所です。そんな春日池公園を、これからも大切にしていきたいと改めて感じました！
- 春日池公園の基本計画はとても素晴らしいです。この計画をきちんと維持して、アピールしていくことができれば、とても良い公園としていろいろな人に広く知ってもらえるのではないかと思います。
- 春日池や自然についてひとつひとつの植物にもしっかり意味があって作られていることが分かりました。もっと、春日池公園のことを知り、わかりやすく伝えていかないといけないですね。
- 春日池は、人々の生活を支える歴史があることを知り、驚きました。
また、一つの公園の中に、様々な想いを持ってゾーニングされていることに魅力を感じました！

第2章

春日池公園の現状・ポテンシャル

- 春日池公園は、整備された歴史からもわかるように多くの住宅団地に囲まれた公園です。
- 商業エリアに近い西側の地区には、新たにマンションも建設されていますが、東側や南側の地区は空き家の増加が懸念されています。



- 周辺エリアである7つの学区(春日、日吉台、伊勢丘、坪生、幕山、大谷台、緑丘)の人口と、福山市全体の人口割合を比較すると高齢層(70～74歳)が高く、若年層(25～34歳)が低い傾向がみられます。

●春日池公園近隣の人口予測
(人・%)

小学校区	2050年 推計人口	増減割合
春日	6,932	-17.6
日吉台	5,407	-21.4
伊勢丘	5,385	-15.5
坪生	7,649	-24.9
幕山	6,404	6.0
大谷台	2,375	-28.4
緑丘	16,769	13.8
福山市全体	416,063	-9.7

増減割合は2020年9月時点から2050年推計人口の増減割合

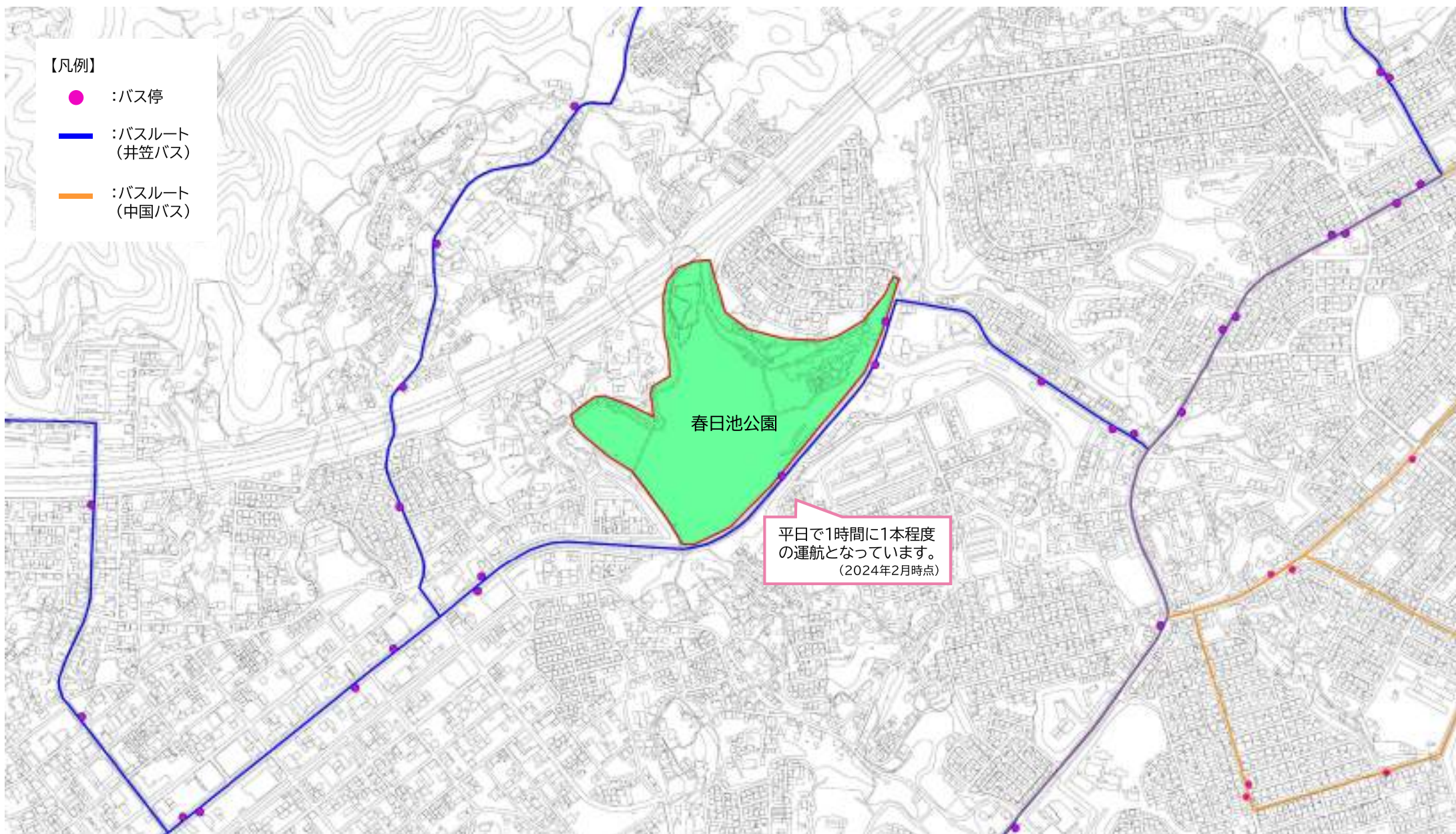
●年齢別人口割合(2023年3月末)



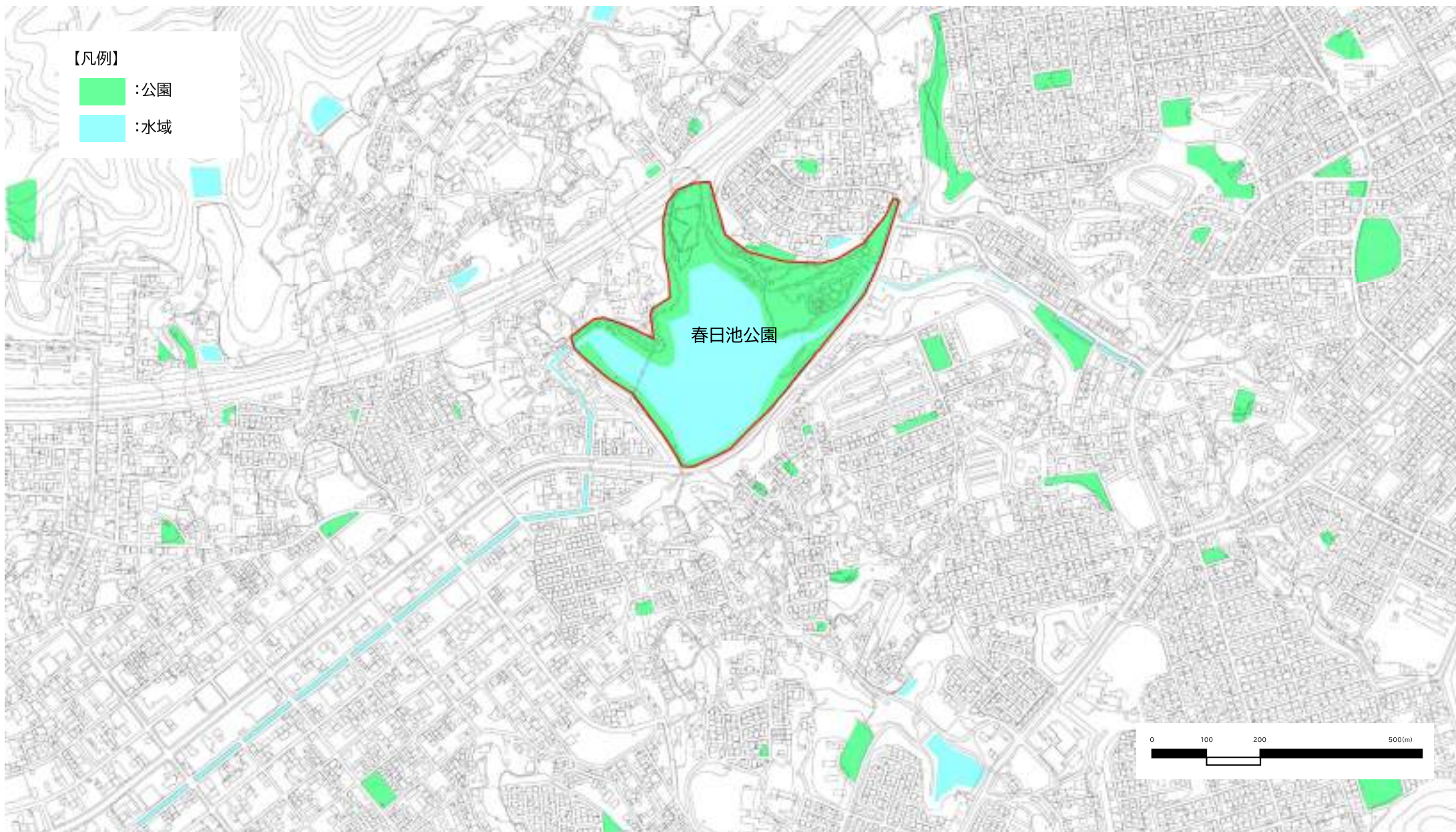
- 周辺エリアの公共交通(バス)のルートとバス停は以下のとおりです。
- 地域からは、「これ以上バスの本数が減ってしまうと生活に支障が出てしまう」といった声が挙がっています。

【凡例】

- :バス停
- :バスルート
(井笠バス)
- :バスルート
(中国バス)



- 周辺エリアには多くの公園や水域が存在しており、地域住民の身近な自然としての役割を担っています。
- これらの小さな公園については、地域の自治会・町内会などによって日常の管理がなされています。



- ここまで見てきた春日池公園周辺エリアの現状・地域特性を踏まえると、以下に示すような地域の課題が想定されます。
- 本ビジョンで定めた春日池公園の活用が、これらの課題解決につながり豊かな暮らしの実現に向けた取組としていきます。

現状・地域特性

- 少子高齢化
- 小さな自然(小さな公園など)が身近に存在する

問題

- 地域活動の担い手不足
- 空き家の増加が懸念
- 交通サービス(利便性)の低下



想定される地域課題



① 健康寿命の延伸

年を重ねても、ずっと健康で元気に過ごせることで、みんなの活躍する機会がどんどん増えていきます。

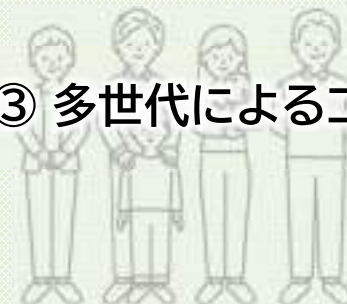
② 子育てしやすい環境づくり

このまちで子育てをしたいと思われる地域になることで、若年層が増え、子どもの元気な声が飛び交うまちになっていきます。



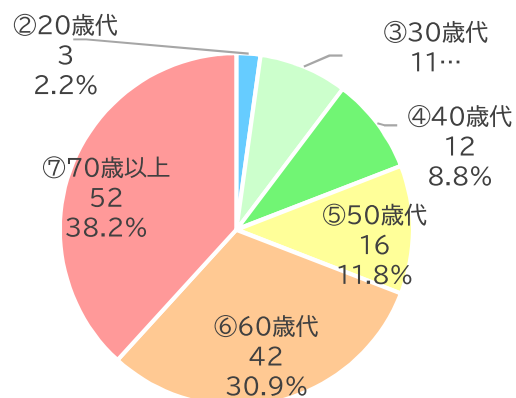
③ 多世代によるコミュニティ活動の促進

様々な世代が交流する機会が増えていくことで、みんなが協働し、助け合える住みやすいまちになっていきます。

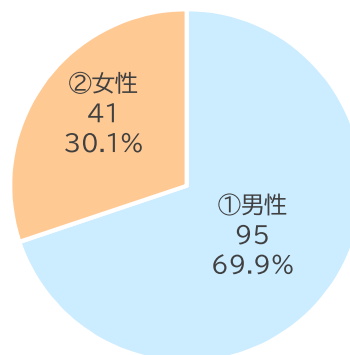


- 2023年8月に春日池公園の利用者を対象としたインタビュー調査を実施しました。
- 調査の結果、利用者は60歳以上の高齢者が70%近く、散歩・ウォーキングでの利用が大半を占めていることが分かりました。また、公園の良いところとして、自然が感じられる点を挙げる回答者が多くみられました。

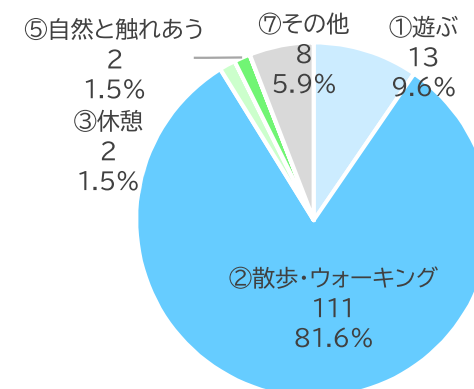
▼年齢(n=136)



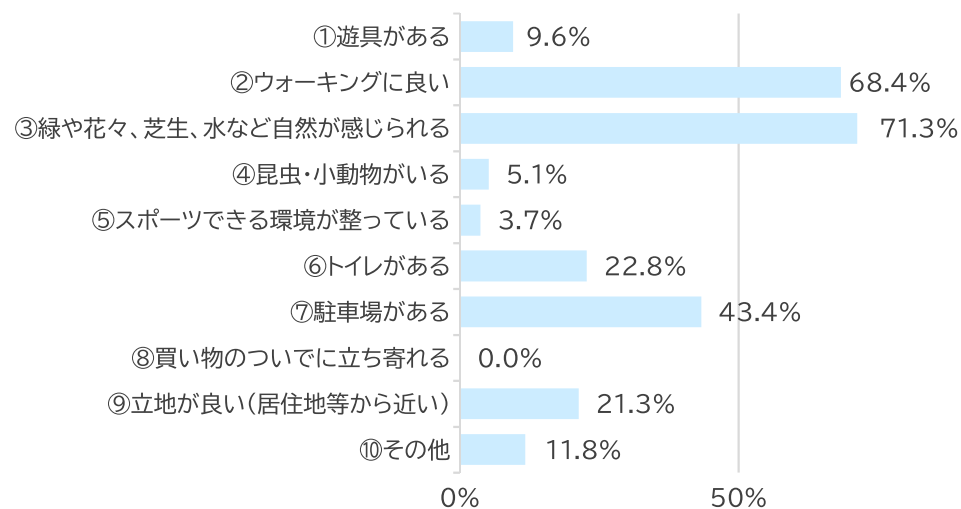
▼利用者の性別(n=136)



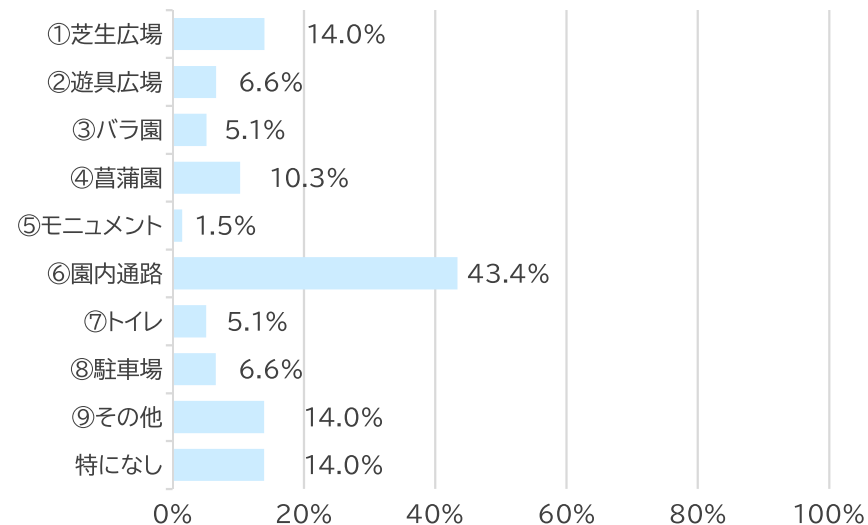
▼利用目的(n=136)



▼気に入っているところ



▼改善してほしい場所



- フィールドワークを通じて公園の現況を確認し、その結果を以下の7つのエリアに分けて整理しました。



■ ①自然・散策ゾーンは、多様な自然環境が「生き物たちの豊かな住処」となっています。



- 菖蒲園は池を埋め立てて湿地園としてつくられた。菖蒲は1975年に明治神宮より35品種・350本の株分けを受け、植えられた。
- 現在は約80種・5万株の菖蒲が植えられている。
- エリアごとに、桜やアジサイ、ラクウショウなど、様々な樹木が植樹されている。
- 樹木に番号掲示がされているが、樹木の名前は分からない。
- ニセアカシアなど外来植物の姿も見られ、どのような植物が繁茂しているか現時点ですべて把握できていない。
- 菖蒲園内にはビオトープがあり、多様な生き物が生息していると思われる。
- 春日池横のベンチは、朝日と夕日が当たるように工夫されており、眺めが綺麗。ただし、ベンチにテーブルは設置されていない。



①春日池横のベンチ
朝日と夕日が当たるようになっており眺めが綺麗。ベンチにテーブルはない。



②菖蒲園
花の咲いていない季節は草が繁茂し、自然豊かな環境となっている。



③菖蒲園
岩場と水辺のビオトープが形成されている。



④菖蒲園
花が咲く季節は多くの方が花を眺めに訪れる。



⑤健康遊具
ウォーキングの途中で気軽に運動ができるよう健康遊具が設置されている。



⑥桜の広場
桜の咲く季節はレジャーシートを敷いて花見を楽しむ人の姿が見られる。



⑦桜の広場
桜の咲く季節以外は、過ごす人の姿はあまり見られない。



⑧園路
多様な草花や生き物など自然感じながら、園内を周遊することができる。



⑨園路
手入れが必要な樹木や、部分的な舗装のたつきが見られる。



⑩樹木の番号表示
表示(番号)が設置されているが、この表示だけでは樹木の種類までわからない。

■ ②春日池は公園内に美しい風景をつくり、生き物の生息場所となっている一方、水質の悪化などもみられます。



- 江戸時代に灌漑用水用のため池として造成されたのがはじまりで、現在も農業用水として利用されている。江戸時代に作られたウテビ(水量を調整する構造物)が一部残っている。
- 2005年～2012年にかけて浸水被害を軽減するため、池底を3m深くする掘削工事が行われた。
- 鳥や魚、亀など様々な生物が暮らしている。
- 公園面積15.6haのうち、半分以上の8.3haの面積を占める。
- 公園造営時には、宇部市の常磐公園から贈られた白鳥が住んでいた。
- そばにあるベンチでボーっと池を眺められる。
- ゴミが浮いている。
- 池の近くまで行くことができない。



①芝生広場付近からの眺望
日光にきらめく水面や木々の緑、うらしま橋など綺麗な眺めが望める。



②パーゴラ
春日池を眺めるパーゴラ(日よけ空間)があるが、テーブルは設置されていない。



③春日通り
春日池により、交通量の多い道路(春日通り)との間に良好な距離感が保たれている。



④うらしま橋
春日町浦上と能島を繋ぐことから、「うらしま橋」と名付けられた。



⑤水際空間
池と園路との間の空間。立ち入ることはできないが、野鳥が羽を休める姿も見られる。



⑥堤防
浸水対策のために2012年に強化整備された堤防の法面は緑化されている。



⑦放水口
貯水機能を持つ春日池が放水量を調整するための設備も見ることができる。



⑧水質
水の濁りや、水際等にはゴミが浮いている状況が見られる。



⑨園路からの眺め
春日池を周遊する園路があり、色々な角度から春日池の風景を楽しむことができる。



⑩ウテビ
江戸時代につくられたウテビ(水量を調整する構造物)を今でも見ることができる。

- ③公園のシンボルとなるモニュメント「太陽の滴」が設置されており、来訪者を誘う空間となっていますが、植栽の手入れが少し行き届いていない様子もみられます。



- 広場的な使い方ができる園路としてつくられた。
- 一種の屋外美術館のようなイメージも持たされている。
- 公園のシンボルであるモニュメントは人が語らいの場となることを期待して作られている。
- 草がぼうぼうとなっている。
- 花壇に花が植えられていない。
- モニュメントの作品の説明がない。
- ベンチが老朽化してぼろぼろになっている。
- タイルが部分的に剥がれている場所がある。
- 管理事務所が有効に活用できていない。(現在は公園の清掃等を行う事業者の倉庫・休憩所として利用している。)



①公園のエントランス
公園の正面入り口から最初に見える景色で、奥にはモニュメントが見える。



②舗装
舗装は石畳調のタイル張りで美術館調の雰囲気演出されている。



③植栽樹
随所に植栽樹がつけられており、草が繁殖している。



④ベンチ
休憩のためのベンチが置かれているが、老朽化したものも見られる。



⑤花壇
段差を持ちながら花壇がつけられ、花壇際には座することもできる。



⑥ポケットスペース
不整形に花壇や植栽枠が作られていることで、様々なポケットのような空間がある。



⑦モニュメント「太陽の滴」
広場の先に、杭谷一東氏により制作されたモニュメントが設置されている。



⑧モニュメント「太陽の滴」
モニュメントは近くまで立ち入ることができる。



⑨植栽樹
一部の植栽樹には砂利が敷かれ雑草が生えないようになっている。



⑩管理事務所
トイレが併設された管理事務所は、管理業者の休憩所・倉庫として利用されている。

■ ④芝生広場は、子どもから大人までみんなが楽しみ、自由に活動できる広場です。



- 軽い運動も行えるなど、春日池公園の中で一番活動的で自由に使える場所として作られている。
- 春日池を眺めるロケーションがとても良い。
- せっかくの自由に使えるスペースを十分に生かしきれていない。
- 芝生や雑草が長くなっている。
- 健康器具が設置されているが、使い方がわからないとの声も聞かれる。



①自由に使える空間
遊具等も設置されず、公園の中で最も自由に使える空間となっている。



②座れる石
随所にちよっと座れる場所として石が置かれている。



③春日池の眺め
広場でゆっくりと過ごしなが春日池を眺めることができる。



④木かげ
周囲には大きな樹木が植えられ、木かげを作り出している。



⑤園路との緩衝空間
園路など周囲との間に樹木が植えられ憩いと移動の緩衝空間となっている。



⑥芝生
座る・走る・寝転ぶなど、芝生は様々な過ごし方ができる。



⑦樹木
部分的に老朽化した樹木が見られる。



⑧健康遊具
園路沿いに健康器具が設置されているが、使い方がわからないとの声も聞かれる。



⑨芝生の管理
季節によっては、芝が長く伸びすぎ利用しづらい時期もある。



⑩モニュメントとの一体感
モニュメントと広場の自然が違和感なくつながり一体感が形成されている。

■ ⑤冒険の国は、インクルーシブ遊具が整備中であり、子どもたちみんなが遊べる場所として位置づけられています。



- 隣接するニュータウンえびす公園と合わせて利用できる場所、遊具で遊べる場所としてつくられた。
- 新たにインクルーシブ遊具が整備される。(2024年5月 完成予定)
- 子どもが遊びやすく、ベンチで大人も休むことができる場となっている。
- ベンチや日陰の数が少ない。(2024年5月 増設予定)
- 段差や砂っぽい地面で、車いすやベビーカーが使いにくい。(2024年5月 ゴムチップ等舗装の整備予定)



①インクルーシブ遊具

障がいを持つ子ども、持たない子どもと一緒に遊べるインクルーシブ遊具が新たに整備される。



②子どもたちの場所

複数の遊具や砂場が整備され、子どもが自由に遊べる場所になっている。



⑤砂地の地面

現在は砂地の地面になっており、車いす等での通行が難しい。(整備予定)



③ベンチ

保護者が座れるベンチもあるが、数が不足しているという声も聞かれる。(増設予定)



⑥園路

近くまで自然の空間がつくられているが、手入れが行き届かず進入禁止となっている。



④トイレ

トイレが近接して設置してあるが、古くて使いにくいとの声も聞かれる。



⑦広場入口

注意喚起の看板が設置されているが、漢字表記のため小さい子どもには読めない。

■ ⑥ばら園(花の広場)は、「福山・第2のばら公園」を目指してつくられた西洋風の広場です。



- 第2のばら公園を構想しながら、西洋風の庭をイメージされている。
- 2,300本のばらが植えられている。
- ばらの名前の表示も設置されており、多様なばらが植えられている。
- 枯れ木が多い印象がある。
- 藤棚は蔓が垂れているなどしているため、入りにくい。
- ベンチが少ないのでゆっくりできない。



①西洋風の庭
西洋風の庭をイメージして作られたばら園全体を眺めることができる。



②2,300本のばら
シーズンには2,300本のバラが咲き誇る様子を楽しむことができる。



③ばらの管理
市職員や委託業者により、ばらの剪定や除草などが行われている。



④園路
ばら園内をウォーキングのコースとして利用する人も多くみられる。



⑤藤棚
中央広場側には藤棚のトンネルがつけられている。



⑥駐車場側からの入口
入口側にもばらが植えられ、ばら園の存在が分かりやすくなっている。



⑦舗装
ばら園内の園路は、ばらの色が生える土系の舗装となっている。



⑧段状の花壇
ばらを立体的に楽しめるように段状の花壇になっている。



⑨管理
ばらの季節以外は、花壇内は雑草が伸びた状態になってしまっている。



⑩藤棚の入口
藤棚の入口は蔓が垂れてきており、トンネルに入りづらい印象を与えてしまっている。

■ ⑦ばら園(四季の森)は、ばらとともに、四季を感じことができ、春日池を展望できるロケーションですが、今は木々で眺望が遮られてしまっています。



- 緩やかな法面として春日池を展望できるスペースとしてつくられた。
- 21品種・1,000本のばらが植えられている。
- 木が伸びており池を眺めることができない。
- 花の広場と比べて、ばらが少ししか植えられていない。
- 人にあまり立ち寄られていない。
- 案内板がなく、園路もガタガタになっていて行きづらい場所になっている。



①1,000本のばら
ばらの季節には1,000本のばらが咲き、ばら園(花の広場)とは趣きが異なる。



②アクセス
丘となっており、登り坂を上った先に見える景色の移り変わりを楽しめる。



③花壇
シーズン以外は草がのびてしまっている。



④ベンチ
丘の上から春日池を眺める設計であるが、樹木が伸び、現在は池を望むことができない。



⑤園路
分かれ道がつけられ、歩きながら楽しむことができる。



⑥自然(どんぐり)
園路沿いにはどんぐりがたくさん落ちており、ちょっとした広場のようにもなっている。



⑦ばらの手入れ
シーズン以外も、ばら園部分は手入れがなされている。



⑧利用者
ウォーキングや犬の散歩で訪れる人が多く、座って過ごす人はあまり見られない。



⑨静かな雰囲気
時間帯によっては人があまり立ち寄らないため静かな時間が流れている。



⑩園路
路面がガタガタになっており、通行しにくい状態となっている。

■ 現状の把握から見てきた春日池公園のポテンシャルや春日池公園の抱える課題は以下のとおりです。

良いところ

- 豊かな自然により、生き物の多様な生態系がつけられている。
- 水がめとして役割や、憩いの場所としての役割を担ってきた豊富な水を有する春日池が、公園の中心となっている。
- 人と文化を繋ぐ役割を持つアート(モニュメント)が、公園内につくられている。
- 散歩・ウォーキングの空間として、多くの市民に利用されている。
- ばらや菖蒲といった花の季節には、多くの人が訪れる場所となっている。

残念なところ

- 花壇や樹木など、十分な手入れが行き届いておらず、どのような自然環境が形成されているかも把握できていない。
- 春日池を環境面、活動面のどちらからも活かせていない。
- 公園の歴史や成り立ち、特徴を伝える機会や手段が不足しており、魅力が届いていない。
- 利用者の年齢層や利用方法、利用時期が限定的となっており、多様な活動がなされていない。
- 誰もが使いやすく、過ごしやすい環境が整っていない。

春日池公園を実際に散策して。

コラムでは、フィールドワークやワークショップで挙げたみなさんの声を取り上げていきます。

- 自然が多くて、歩いたり、ゆっくり過ごしたりするのに、とても気持ちのよい公園です。また、鳥や虫の
声が良く聞こえる公園だと思いました！
- 四季折々の花や、様々な樹木が植えられていて、春日池を中心に広々とした景色が広がり、雄大さも
感じることができました！
- 普段の利用ではあまり気にしていませんでしたが、草がぼうぼうだったり、枯れ枝が落ちていたり、手
入れが少し行き届いていないことが分かりました。
- 段差や砂っぽい路面などがあり、車いすでは少し移動しにくかったです。
- 公園のことをもっと知りたいという気持ちになりました！

第3章

取組方針とビジョン

- 公園や周辺エリア(まち)の現在地を確認した上で、ワークショップを通じて、実現したい公園の姿を市民の皆さんと深め、整理していきました。

#思い出や記憶に
残る公園

#生き物たちと
共生できる公園

#草花のお世話が
できる公園

#人と地域が
つながる公園

#自らが主体的に
関われる公園

#心も体も健康に
なれる公園

#誰もが使いやすく
優しい公園

#楽しく学び、遊び、
活動できる公園

#新しい挑戦が
認められる公園

みんなで実現したい公園の姿

- 実現したい公園の姿を具現化するために5つの取組方針を設定しました。
- 活動の中心として、自然(植物・生き物)⇄人間とのバランスを考慮した方針としています。



自然

五感で自然を感じられる公園にしよう！

みんなで育てる公園にしよう！

心と体が癒される公園にしよう！

遊びを通じて成長できる公園にしよう！

誰でもチャレンジできる公園にしよう！



人間

五感で自然を感じられる公園にしよう！

[方針に込めた思い]

春日池公園には多様な生き物が暮らす豊かな自然環境が形成されています。これらの自然環境は五感を通して私たちの心や体に良い影響を与えてくれます。

この自然がもたらす恩恵をネイチャーガイドなどを通じて学んだり、体感できる公園にしていきたいと思います。

[取組イメージ]

- ◆ 公園ガイドツアー
- ◆ 樹木の見本園
- ◆ 自然を活かしたワークショップ
- ◆ 生物・植物図鑑づくり



まずは、公園内に四季を通じてどんな植物が育ち、動物が住んでいるのか、自然環境を“調べる・知る”ことからスタート。

五感を感じる体験をみんなで共有しながら、ネイチャーガイドツアーやセルフガイド、自然MAPなど様々な方法でみんなが公園の自然を感じられる取組をしていきます。

[想定する活動エリア]

自然・散策ゾーン

春日池



みんなで育てる公園にしよう！

[方針に込めた想い]

豊かな自然環境を有する春日池公園は、貴重な地域資源でもあります。今後、公園の管理に係る負担が増える中でも、みんなで守り、育て、よりよい地域づくりに活かしていくことが大切です。

公と民が連携して、自然環境の保全や活用に積極的に取り組み、次世代に繋がる公園にみんなで育てていきましょう。

[取組イメージ]

- ◆ 公園のお手入れ
- ◆ 植物を育てる
- ◆ 案内看板を整える
- ◆ ばらの剪定

落ち葉・枯れ枝拾いや植物のお世話、案内看板などの既存の公園の資源をお手入れすることから始めます。
ばらの剪定や、花壇・空いたスペースなどを使って、季節の花を植えたり、食べられる実のなる木を植えたり、みんなで楽しみながら公園を育てていきます。



[想定する活動エリア]

自然・散策ゾーン

中央広場

ばら園(花の広場)

ばら園(四季の森)



心と体が癒される公園にしよう！

[方針に込めた思い]

豊かな自然環境は、現代人が抱えるストレスや疲労を回復させる力を持っています。

誰もが自然の中に身を置いて、安全で快適に歩いたり、本を読んだり、コーヒーを飲んだり、思い思いに過ごせる環境を整え、心と体がリフレッシュできる公園にしていきたいと思います。

[取組イメージ]

- ◆ カフェ空間づくり
- ◆ 本を楽しむ
- ◆ ゆっくり過ごすスペースづくり
- ◆ アウトドア



日常的に利用できる公園の中に、
居心地の良いリビングのような場所づくりを行います。
そのために、コーヒーや、本、アウトドアなどの
日々の疲れが癒されるようなコンテンツを少しずつみんなで持ち寄りながら、
公園の中に具現化していきます。

[想定する活動エリア]

芝生広場

春日池



遊びを通じて成長できる公園にしよう！

[方針に込めた思い]

春日池公園には、障がいの有無にかかわらず、多様な子どもたちが一緒に遊べるインクルーシブ遊具が整備されています。

この遊具の活用を通じて、子どもたちが遊びの中から社会性や柔軟性、コミュニケーション能力などを学び、成長できる公園にしていきたいと思います。

[取組イメージ]

- ◆ 車いすでも使いやすい公園づくり
- ◆ インクルーシブ遊具の活用
- ◆ 自然を活かした遊び場づくり



子どもたちみんなが、自由に遊びまわれる公園づくりにはお互いのことを理解することから始まると考えました。
車いすの体験会や、インクルーシブ遊具の活用を通じてみんなが同じように公園で遊び、様々な体験を通じて成長できる、親が連れていきたくなる場所づくりを目指していきます。

[想定する活動エリア]

冒険の国



誰でもチャレンジできる公園にしよう！

[方針に込めた想い]

マルシェやドッグラン、音楽ライブや水上アクティビティなど、多様な活動が公園で受け入れられれば、日常の暮らしはもっと楽しくなるはずです。

公園を柔軟に使いこなすローカルルールを自分たちで考え、色々なチャレンジができる公園にしていきたいと思います。

[取組イメージ]

- ◆ イベント(マルシェ・音楽など)
- ◆ イルミネーション
- ◆ ウォーキングの利用促進
- ◆ 水上アクティビティ



幅広い世代が集まる公園としていくためには、
まずは、みんなに興味を持ってもらえる取組が必要と考えました。
自身の趣味や特技を活かし、
できることから1つずつチャレンジしていくことで、
いろんな人がチャレンジし、みんなが楽しめる場所をつくっていきます。

[想定する活動エリア]

中央広場

芝生広場

春日池



春日池公園 パークライフ ビジョン 2023

【コンセプト】

みんなで育てる、元気の源。 ネイチャーポジティブな水辺公園

※「ネイチャーポジティブ」とは、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味する言葉です。
春日池公園の豊かな自然環境を地域資源として保全・活用し、次世代に引き継いでいくという想いが込められています。



- 実現したい公園の姿を目指して活動する中で、ワクワクする公園が生み出す、豊かな暮らしのシーンが生まれていきます。
- 公園とともにある豊かな暮らしを実現していきましょう。

春日池公園の活動を通じて、
例えば、こんな暮らしのシーンが
見られるまちになっていきます。

みんなが元気に 活躍できるまち



適度な運動や、多様な活動の時間を過ごすことができ、心身ともに健康になれる公園があることで、普段からみんなが元気に活躍できるまちになっていきます。

子育てしやすいまち



子どもも親も、みんなで楽しく、安心して遊び・過ごすことのできる公園が身近に生まれることで、子育てに最適なまちになっていきます。

交流が生まれるまち



多様な世代が集える公園があることで、多世代の交流が創出され、地域の行事など、みんなで協働した様々な活動が行われるまちになっていきます。

春日池公園でのトライアル活動を実践して。

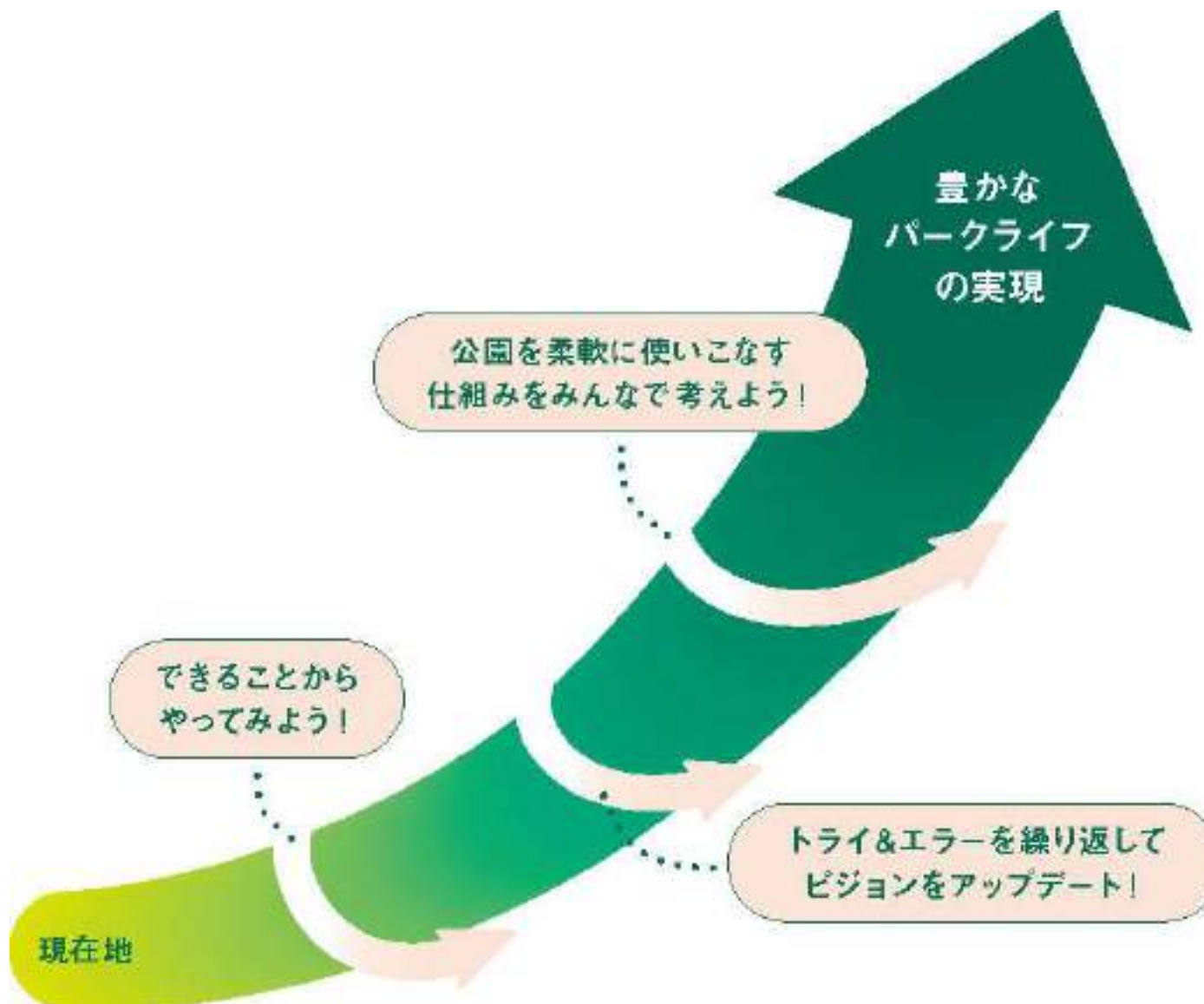
コラムでは、ワークショップで挙がったみなさんの声を取り上げていきます。

- グループメンバーの皆さんと一緒に企画から準備、当日の運営まで行い、貴重な経験となりました。
反省点もありますが、みんなで楽しみながら実践できたことが何よりも良かったです！
- 健常者の方も、車いすを使っている方も、一緒になって活動しているこの状況がとても素晴らしく、誰でも楽しめる公園づくりに一歩近づいているのではないかと感じました！
- 普段味わえない体験をすることができ、時間を忘れるくらい夢中になりました。自然の持つ力を改めて感じることができたので、この経験をもとに色々なことを企画していきたいと思います！
- 公園が持つポテンシャルを活かせば、人が楽しめる場を生み出せることを再認識できたと思います！

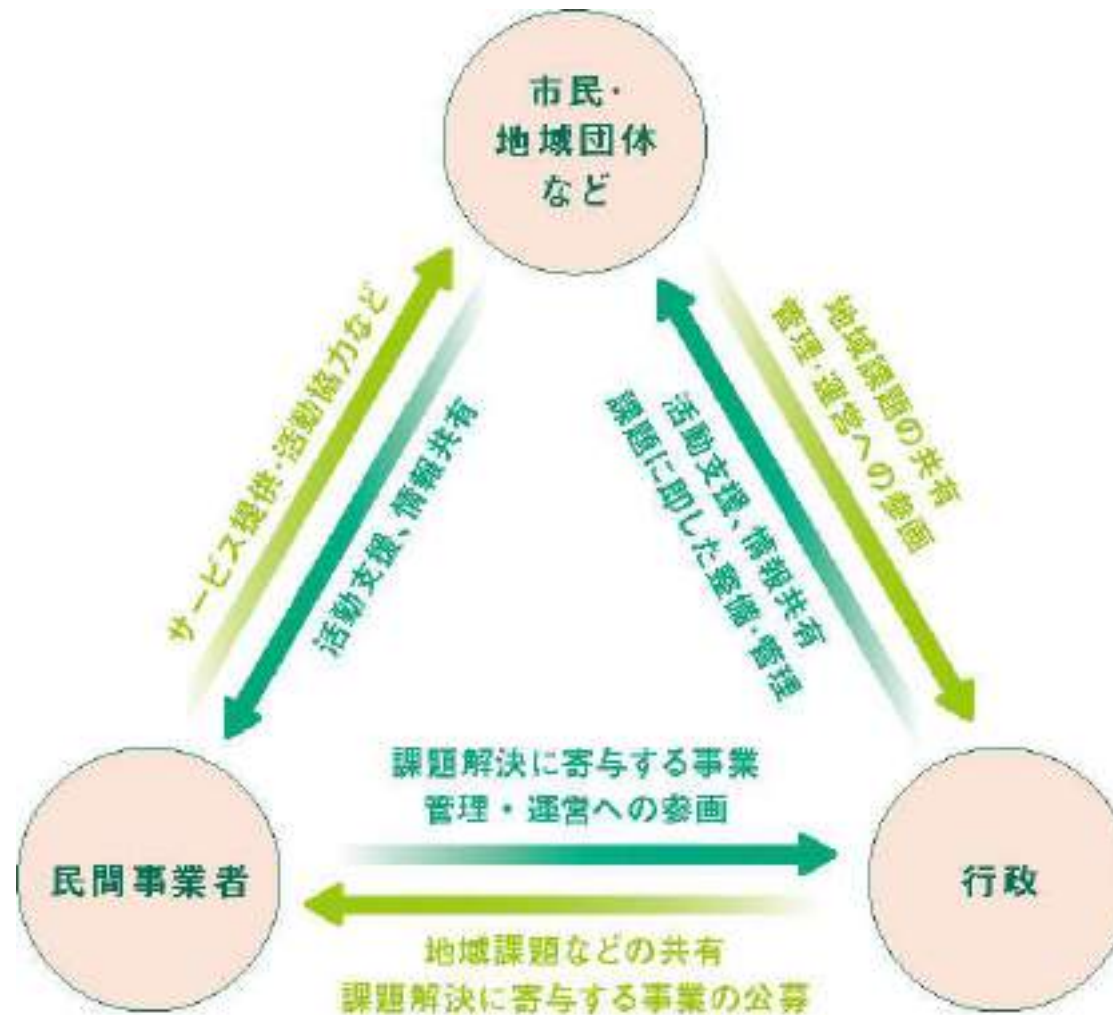
第4章

ビジョンの実現に向けて

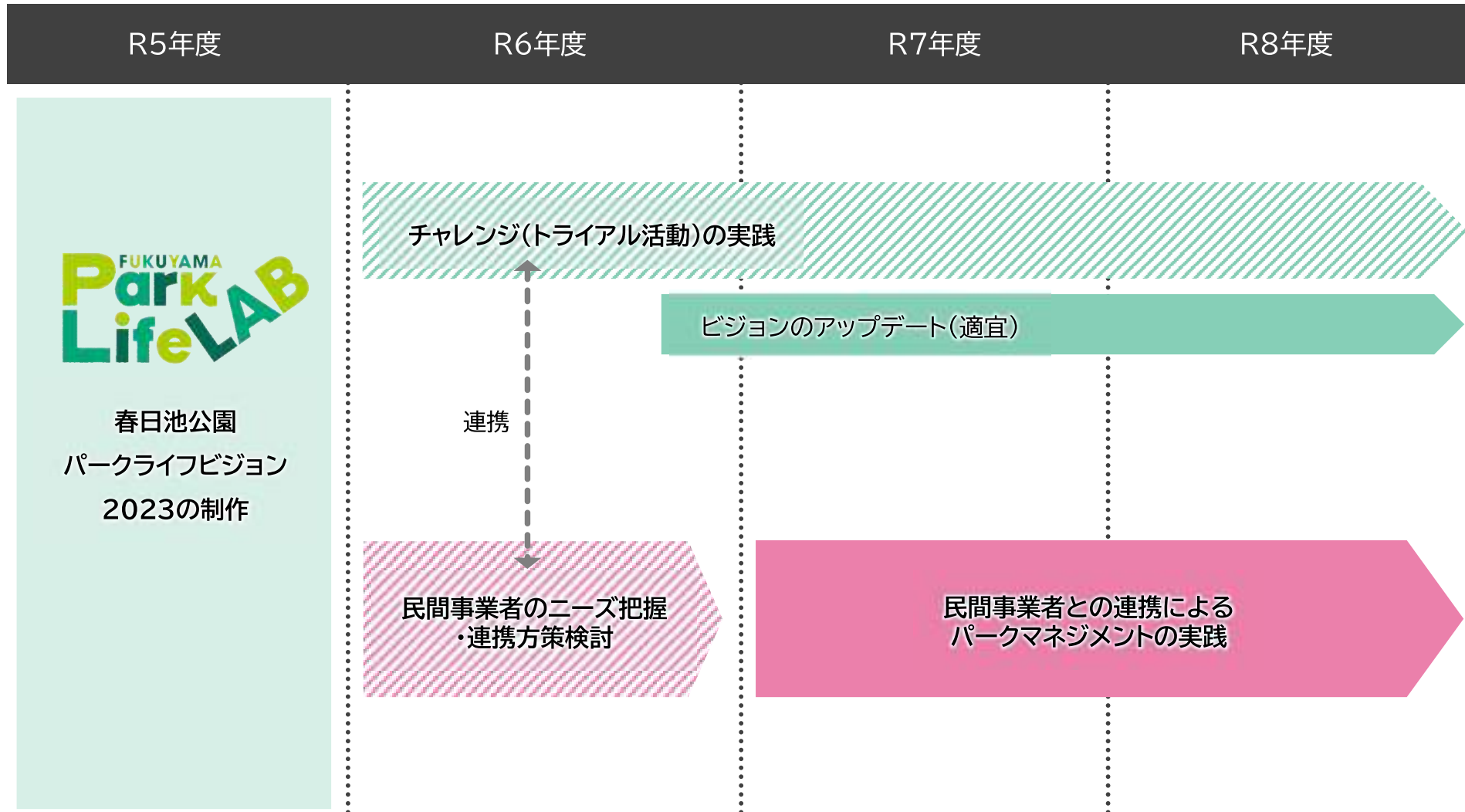
- ビジョンの実現に向けては、仮説を立て、実験や観察を通してデータを収集し、検証を繰り返す中で、よりよい方法を考えていくアプローチが効率的であると考えられます。
- 時には失敗から学ぶことも大切で、試行錯誤しながら、少しずつ解像度を上げていく。そんなイメージで取り組んでいきましょう。



- ビジョンを実現するには、公民連携による推進体制の構築が不可欠です。
- 行政だけでなく、地域の実情をよく知る市民と、行政では持ち得ないノウハウを有する民間事業者が相互に連携し、地域課題を共有する中で、役割分担を図りながら、共にパークマネジメントを推進していくことが効果的であると考えています。



- 取組方針に沿った活動の展開にあたっては、できることから小さなチャレンジ(トライアル活動)を積み上げていくことから始まります。チャレンジの結果をしっかりと活かし、次のチャレンジにつなげていくことを繰り返すことで、一歩ずつ目標とする姿に近づき、ビジョンの解像度がより高まっていきます。
- 楽しみながら、話し合い、実践し、振り返ることで、みんなの手で、ビジョンを育てていきましょう。



春日池公園パークライフビジョン2023・ParkLife LABについて

NPO法人NPO birth 事務局長 佐藤 留美さん

- パークライフビジョンというタイトルがいいですね。公園を使うことで、日々の暮らしが豊かになっていくといくことが体现された言葉です。
- コンセプトの「元気の源」という言葉には、若い人も高齢者も、障がいのある人もない人も使いやすい、行きやすいインクルーシブな公園にしようという想いが詰まっていて、とても素敵です。
- 「ネイチャーポジティブ」という考えも時代を先取りしていて、世界的に危機的状況に陥っている自然環境を保全するため、広く自然の価値を伝えていくというコンセプトとなっており、素晴らしいです。
- みなさんと共に、色々な取り組みを行うことで、新しいアイデアが生まれ、ブラッシュアップされていきます。そのプロセスこそが、ParkLife LABの成果です。これからも公園をどんどん使って、公園と地域のポテンシャルを引き出し、元気でネイチャーポジティブな未来につなげていきましょう。

春日池公園パークライフビジョン2023・ParkLife LABについて

福山市立大学 都市経営学部 准教授 根本 修平さん

- 色々な取り組みは、道標となるビジョンを作るところから始まりますが、まずは皆さんが共有できるビジョンが今回まとまったことが大きな成果だと思います。
- これからは、ビジョンの実現に向けて、色々な主体が連携して活動すると思います。福山駅前だと都市環境ですが、春日池公園は自然環境のように、それぞれの地域の役割や特徴について、互いが理解を深めながら取り組むことで、お互いの良いところをさらに伸ばせると思います。
- 我々は、これまで行政が管理していた「公共空間」が、市民でも活用できる「公共的な空間」に変わっていく、とても面白いタイミングに立ち会っています。ここでの取り組みは、春日池公園だけでなく、福山市の公共空間の将来像を考える際のモデルとして参照されるようになると思います。
- 期待半分、不安も半分ですが、何より楽しみながら引き続き一緒に頑張っていきましょう。

お問合せ

福山市東部地域振興課
地域づくり担当

MAIL toubu-chiikishinkou@city.fukuyama.hiroshima.jp

TEL 084-940-2574

福山市公園緑地課
利活用推進担当

MAIL kouen-ryokuchi@city.fukuyama.hiroshima.jp

TEL 084-928-1096